

2019年6月1日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 29

Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

顎顔面補綴における学際連携



学際連携委員会委員長

小山 重人

本学会では、「会員相互並びに国内外の関連団体との交流を深め、顎顔面補綴に関する基礎的及び臨床的研究、教育及び診療についての会員の能力向上を図る」ことが目的とされ、そのための事業内容として「国内外の関係学術団体との連絡及び提携」が明確に謳われています。これらに基づき本学会は設立当初から、補綴科、口腔外科、歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士など多くの分野から成り立つ専門性の高い学会として活動を続けてきました。すなわち学際連携の強化は今後とも本学会に欠かすことのできない最重要課題と捉えられるでしょう。

この目的達成のために学際連携委員会が設置さ

れており、関連する他学会との交流を模索してきましたが、具体的な成果は得られていなかったのが現状です。そこで今期学際連携委員会は先ずは「関連する学会と HP の相互リンクの構築」という方略のもと、言語聴覚士の学術団体である日本コミュニケーション障害学会、および日本口腔衛生学会との HP 相互リンクをすでに達成しました。今後はさらに関連する他学会とのネットワークを広げて行きたいと考えています。もちろん、学際連携を進める方略は HP だけではありません。他にも、関連学会に「顎顔面補綴装置を考える(仮)」分科会を設置し、連携を推進するなど、計画中です。

顎顔面補綴治療には周術期からリハビリテーション治療まで、すなわち始動から機能回復を目的にした最終ゴールを見据えた医療の実施が求められています。これには医科との連携も避けられません。今後学際連携委員会では専門領域の垣根を越えた、新しい形の多方面・他領域との連携確立に寄与していく所存ですので、ご指導よろしくお願いいたします。

若手研究者海外短期研修 報告



服部麻里子

東京医科歯科大学
顎顔面補綴学分野

本研修は顎顔面補綴学の発展に寄与する国際的・学際的な研究者の育成を目的とし、2019年2月26日～3月1日にドイツ、フライブルク大学にてラルフ・コーハル教授のもとで行われました。服部をコーディネーターとし、参加者は畠山 航と李 娜の2名でした。以下に研修の内容を紹介いたします。2月26日の正午にフライブルク駅にて集合した後、大学病院に向かいました。事務の方との面会の後、まずデジタル歯科技術研修1（補綴科）を行いました。補綴科のノルト先生による口腔内スキャン実習で、デジタル印象から設計までの流れについて、一人一台の口腔内スキャナーを用いて教わりました。二日目の午前中はフライブルク大学歯学部附属病院で外来見学を行い、補綴科のフォン・シアホルツ先生の症例を見学させていただきました。その後市街に移動し、フライブルク大学の学部校舎を見学した後に、デジタルダイアグノースセンターを訪問し、シュルツェ先生より放射線を用いたデジタル解析についての講義を受けました。三日目の午前にはデジタル歯科技術研修2（技工部）として、ヴィトコフスキー技工士による模型スキャンの実習を行いました。午後にはデジタル歯科技術研修3（口腔外科）として、CTスキャンを用いたデジタル解析と顔面スキャナーを用いた体表面のデジタル解析について学びました。夕方にはフライブルク市街にある、伝統的なお店で医局員の方々と共にドイツ料理をいただきました。最終日となった3月1日の午前中にはデジタル歯科技術研修4（まとめ）として、3Dデータの分析について、ソフトウェアを用いた実習を行いました。午後には補綴科の

医局員が講義室に集まり、服部が顎顔面補綴学に関する講義を行った後に、コーハル教授への感謝状の贈呈を行いました。お二人の参加者は大変熱心に研修に参加しており、フライブルク大学のスタッフと積極的にコミュニケーションを取り、良好な関係を得ることができました。今回の研修で、懐かしい街と大学病院を学会員の方に紹介できたことは、私にとって大きな喜びでした。機会を与えていただきました顎顔面補綴学会の理事の先生方、および国際交流委員の先生方に感謝申し上げます。

若手研究者海外短期研修に参加して



李 娜

鄭州大学
歯学補綴・インプラント学講座

今回の研修に参加させていただき、大変勉強になりました。機会をくださいました日本顎顔面補綴学会に感謝いたします。

フライブルク大学はドイツにおいて最も古い大学の一つであると言われています。中国や日本の大学と違い、キャンパスを囲むフェンスがなく、まるで町のような様子でした。大学の建物はフライブルク市の建物に溶け込んでいて異国の風情を楽しむことができました。特に印象に残ったことは、フライブルク大学病院の環境の良さです。研究施設が整っていることはもちろん、スタッフの方が機器の使い方を丁寧に教えてくださるなど、大変優しく接していただきました。

また、歯科医師が新しい技術に敏感なことに感心しました。例えばある歯科医師は、昨年の服部先生のセミナーに参加してから、関連する文献を精読し、準備を周到に行った上で習ったことをすぐに臨床に応用したとお話ししてくださいました。このようにフライブルク大学の研究者が未開

拓の領域への鋭い観察力と、素早い行動力を持っている姿は、強く印象に残りました。

東京医科歯科大学への留学中は先進的な顎顔面補綴治療に触れ、驚きの日々でした。日本で体験したことは人生の宝物ですが、さらに多くの先進国の歯科医療を自分の目で確かめて、実践することも夢でした。今回の研修によりこの願いが叶いました。日本の先生方とともに研修に参加できたことは、まだ若手である私にとって大変光栄です。今後はこの研修により得たことをしっかりと身につけ、様々な課題へ取り組んでいきたいと考えています。

最後に日本顎顔面補綴学会国際交流委員の先生方に感謝するとともに、このような素晴らしい制度が今後も継続されることを祈念しています。



島山 航

岩手医科大学歯学部
補綴・インプラント学講座

2019年2月26日から4日間、ドイツ・フライブルク大学において研修に参加致しました。フライブルクはドイツ南西部に位置し、歴史ある建造物や美しい街並みを楽しむことができます。その中であってフライブルク大学は実に500年以上もの歴史を誇り、街の象徴とも言える大学です。

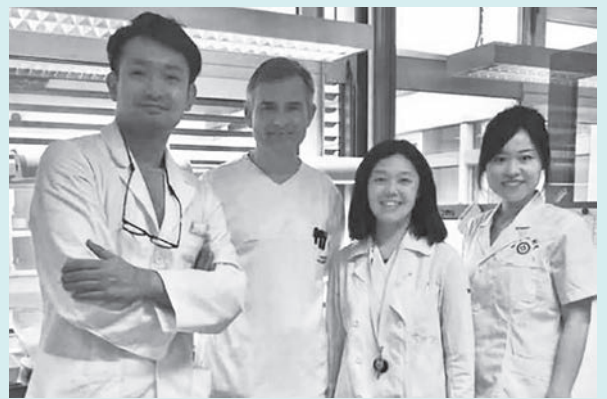
私自身は米国への留学経験はありますが、欧州への渡航は数度の学会参加・発表を数えるのみでしたので今回の研修で欧州での歯科医療の一端を感じられればと考えておりました。

研修初日から外来見学をさせて頂く機会を得ることができました。現在の日本の歯科医療と比較して特段治療レベルが優れているとは感じませんでしたが、ドイツでは個人の歯科医療保険が充実しているということで患者が比較的安価に日本での自費診療に相当する治療を受けることができます。また歯科医師も余裕を持った診療時間の中で

一つ一つのステップに対して抜かりなく的確に治療を進めていくという印象を受けました。

またフライブルク大学は常にインパクトの高い研究・論文を世界に向けて発信し続けている大学で、おそらく100名に満たないと思われる教員の中でそれを行っていることは私にとっては驚愕に値する事実でした。日本国内では、昨今研究力の低下が叫ばれていることもあり、もう一度大学教員として研究・論文にもフォーカスして今後の仕事に尽力していきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい研修を受ける機会を与えて下さいました日本顎顔面補綴学会の米原理事長、尾澤国際交流委員長、コーディネーターの服部先生へ深く御礼を申し上げますと共に、本事業の益々の発展を祈念して私の研修報告とさせていただきます。



ヴィトコフスキー先生と



フライブルク市街にて

2018 年度優秀論文賞受賞者の声



石井悠佳里

東京歯科大学

老年歯科補綴学講座

320 列 面 検 出 器 型 CT
(320-ADCT) による舌切
除症例における舌動態評価
の試み 顎顔面補綴 41
(2) : 56-64

この度は 2018 年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞という素晴らしい賞を頂き、とても光栄に思います。丁寧に査読とご助言を下された先生方、編集委員会の先生方、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

大学院入学時より、舌切除症例を対象とした臨床研究をしたいと考えており、今回このような形で論文にすることができ、賞までいただくことができて、本当に嬉しく思います。

本研究は、自身の学位取得を目的とした研究の第一段階として 320 面検出器型 CT(320ADCT)を使用し、舌切除症例の嚥下動態の評価を試みたものです。これまで本装置は、脳血流量や心臓血管の血流量の解析、肺のボリューム解析など、医科領域で多く使用されていますが、歯科領域においては、この機器を用いた先行研究は少なく、再現性の担保、画像処理、計測方法の決定等に非常に苦慮しました。学生時代に使用していた解剖の教科書を引っ張り出し、試行錯誤して、論文として形にすることができました。連日夜遅くまで一緒に解析していただき、論文執筆に至るまで指導して下さった石崎 憲先生、中島純子先生と櫻井薫教授にこの場をお借りして、感謝申し上げます。また、撮影から画像解析に至るまでご協力、ご助言頂いた東京歯科大学市川総合病院放射線科の馬場 亮先生にも合わせて感謝申し上げます。

今後も、臨床的に用いることのできる嚥下機能評価法の 1 つとして確立させることを目標に、本研究を継続していく所存です。

関連学会報告

日本口腔顎顔面技工研究会 第 20 回学術大会

2018 年 11 月 24 日(土)、「多職種との協働」をテーマに第 20 回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会が愛知県名古屋市にて開催され、会場は名古屋駅前のミッドランドスクエアと交通の便も良く、多くの参加者で賑わいました。

今回は特別講演が 2 題、宿題講演、一般口演 10 題で、大会全体を通して感じたのは、歯科技工士が医療に関わる多職種と連携しての装置の製作や共同研究、産学官連携による医療器具開発など、職域の拡大と新たな付加価値の創造や、工学系技術との協調による将来の可能性が示され、正に大会テーマにふさわしい内容でした。しかし一方では歯科技工士養成校の減少と卒業生の早期離職による就業者の減少問題を取り上げた演題もあり、歯科技工士を取り巻く課題の縮図を見ている様でした。

また同時に開催された総会では理事から研究会から日本口腔顎顔面技工学会への名称変更が提案され会員の賛成多数で承認されました。技工談話会として発足した研究会は 20 周年を節目に 2019 年 1 月に名称変更されることとなりました。会員の多くは歯科技工士ですが、医療に携わる多職種が活発に議論し社会に貢献する会に発展することを期待します。

次回の学術大会は 2019 年 11 月 16 日(土)に長崎で開催される予定です。

(広報委員 宮本哲郎)



学会場の様子

第 37 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

2019 年 1 月 24・25 日（木・金）に、長崎市の「長崎ブリックホール」にて、「がんばらんばー口腔がん治療」のテーマのもと、第 37 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会が開催されました。

指定ワークショップ 2「口腔癌規約・ガイドライン」では、新しい「口腔癌診療ガイドライン 2019 年版 第 3 版」発行に向け大詰めを迎え、今回の改訂作業の報告と改訂のポイントについて説明が行われました。最近のトピックスである、口腔癌のバイオマーカーという新たな項目と、分子標的薬と免疫療法の新規薬剤が追加されたそうです。昨年は、日本頭頸部癌学会も「頭頸部癌診療ガイドライン 2018 年版 第 3 版」を発行し、関連学会の相次ぐ成果に、日本顎顔面補綴学会の診療ガイドライン作成委員として、身が引き締まる思いでした。

シンポジウム 5「口腔がんの理想的な再建手術とは？」では、東京慈恵会医科大学形成外科の牧野陽二郎先生が、理想的な上顎再建のために、9 年間で 67 例中 46 例に施行された血管柄付き骨再建を報告されました。上顎再建に関しては未だに確立された再建法はなく、皮弁による軟部組織だけの再建は顎義歯には不利な場合も多いと思われる、インプラント治療も視野に入れた上顎再建に期待したいです。

（東京医科歯科大学 原口美穂子）



軍艦島（長崎市）

Dysphagia Research Society 27th Annual Meeting

2019 年 3 月 7 日から 9 日までの 3 日間にわたり、USA, San Diego にて Dysphagia Research Society 27th Annual Meeting が開催されました。本学会は摂食嚥下リハビリテーションをメイントピックとした、北米中心の国際大会です。本大会には各国および各職種・分野から約 400 名の参加者が集い、非常に活発な討議がなされました。本分野の特徴でもあるのですが、摂食嚥下リハビリテーションに関わる女性の参加者が非常に多く、会場も非常に華やかな空気に満ちていました。一方、日本からの参加者は例年と比べて少ない傾向にありました。また、本邦以外からの歯科医師の参加も少なく補綴装置を用いたりリハビリテーションに関する報告はほとんどありませんでした。そのような報告を本邦から発信していけば注目されるのではないかと感じました。

学会場は海岸沿いにあり、懇親会は帆船の上で行われ、非常に開放的な気分になりました。また学会場の近くには空母ミッドウェーが停留・展示されており、古いものの歯科診療室・技工室がしっかりと整備されていたのが興味深かったです。今回の大会は 2020 年 3 月にプエルトリコで行われる予定です。

（広報委員 堀 一浩）



学会場の様子



Newsletter No. 29

Maxillofacial Prosthetics

関連学会のご案内

●第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
会期：2019年9月6日（金）～7日（土）
会長：菊谷 武（日本歯科大学教授／日本歯科大学
口腔リハビリテーション多摩クリニック院長）
会場：朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター／
万代島多目的広場・大かま

問合せ：【運営事務局】（一財）口腔保健協会
コンベンション事業部内

TEL：03-3947-8761 FAX：03-3947-8873
<http://www.kokuhoken.jp/jsdr25/>

●第49回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会
会期：2019年9月20日（金）～9月22日（日）
会長：城戸寛史（福岡歯科大学咬合修復学講座
口腔インプラント学分野）

会場：福岡国際会議場／福岡サンパレスホテル&ホール
問合せ：【運営事務局】株式会社エス・ティー・
ワールド コンベンション事業部

TEL：092-288-7577 FAX：092-738-3791
E-mail：jsoi2019@stworld.jp

<http://jsoi2019.com/>

●第64回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会
会期：2019年10月25日（金）～27日（日）
会長：高橋 哲（東北大学大学院歯学研究科
顎顔面・口腔外科学分野）

会場：札幌コンベンションセンター
問合せ：【運営事務局】株式会社コンベンション
リンクエッジ LINKAGE 東北内

TEL：022-722-1657 FAX：022-722-1658
E-mail：jsoms2019@c-linkage.co.jp
<http://www.c-linkage.co.jp/jsoms2019/>

●第33回日本口腔リハビリテーション学会学術大会
会期：2019年11月9日（土）～10日（日）

会長：井上 誠（新潟大学大学院医歯学総合研究
科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）

会場：新潟ユニゾンプラザ

問合せ：【学会事務局】新潟大学大学院医歯学総合研
究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

TEL：025-227-2999

E-mail：oral-reha@dent.niigata-u.ac.jp

●第21回日本口腔顎顔面技工学会学術大会

会期：2019年11月16日（土）

会長：福井淳一（長崎大学病院医療技術部）

会場：長崎大学医学部良順会館

問合せ：【学会事務局】長崎大学病院中央技工室

TEL：095-819-7733 FAX：095-819-7734

●The 66th Annual Meeting of the American
Academy of Maxillofacial Prosthetics (AAMP)

会期：2019年10月26日（土）～29日（火）

Chair：Thomas Salinas, DDS

会場：Eden Roc Resort Miami Beach 4525
Collins Ave, Miami Beach Florida, USA

<https://www.aampconference.com/>

●2019 Joint Meeting of the International
College of Prosthodontics (ICP) and European
Prosthodontic Association (EPA)

会期：2019年9月4日（水）～7日（土）

会場：Beurs van Berlage Damrak 243,
1012 ZJ Amsterdam, Netherlands

<https://www.icp-conference.com/>

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会
委員長 中島純子

委員 猪原 健、大木明子、関谷秀樹、
堀 一浩、宮本哲郎、吉岡 文

E-mail：max-service@onebridge.co.jp